

議題 1

みんながつながる ちがさきの 地域福祉プラン2

令和7年度の実施について



基本目標

1 つながる

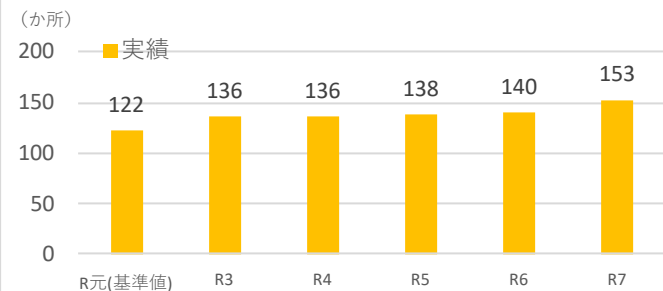
地域に、様々な人と出会い、
互いに尊重し合う関係が生まれる場をつくります。

■ 指標 ミニデイ・サロンの新規設置数 (市社協が活動資金を助成したサロン)



17か所
新規開設！

■ (参考) ミニデイ・サロン全体の推移



指標の状況

ミニデイ・サロンは毎年度新規設置が続いており、令和7年度は助成金を活用して新たに17か所が開設されました。

ミニデイ・サロン全体（市社協の助成を受けていないものも含む）の推移としても、増加傾向となっています。

地区支援ネットワーク会議等での課題検討をきっかけとしたものや、既存の地域活動を発展させたもの、体操や健康、麻雀などをテーマにしたもの、こども食堂など、多様なサロンの立ち上げがみられました。

評価

地域での交流の機会が増加

新たなサロンの開設により、様々な人がつながる交流の場が広がり、身近な場所で、気軽に集える居場所が増えました。

多様性の理解の進展

市社協主催の講座等のほか、地区においても障がいや認知症をテーマにした講座等が開催され、多様性への理解が深まりました。

居場所を起点とした活動の広がり

子どもの居場所など、活動を通じて顔の見える関係が生まれ、活動への参加をきっかけに、新たな担い手や協力者が生まれるなど、人と人とのつながりが広がり、さらなる地域活動へと発展しています。

基本目標

1

つながる

地域に、様々な人と出会い、互いに尊重し合う関係が生まれる場をつくります。

1 多様性への理解・啓発

多様性への理解を深めるための講座や体験学習、啓発活動等を実施しました。



(主な取組み)

- 地域社会と多様性講座（市社協）
- 出前講座・福祉教育研修会（市社協）
- 夏休みおやこ手話教室（市社協）
- 福祉懇談会（鶴嶺西地区社協）
- 認知症講座（小和田地区社協）など

2 居場所づくり

誰もが参加しやすい居場所づくりを、それぞれの地区で進めました。



(主な取組み)

- ミニデイ・サロンの立ち上げ支援（市社協）
- 夏休み・春休みの子どもの居場所（茅ヶ崎南、海岸、鶴嶺西、湘南、小和田、浜須賀）など

3 互いがつながる・受け止め合う関係づくり

互いを理解し、支え合う関係づくりを地域全体で進めました。



(主な取組み)

- 地区支援ネットワーク会議等での事例の共有（各地区）
- 多様な主体の連携による小学校の下校見守り（茅ヶ崎）など

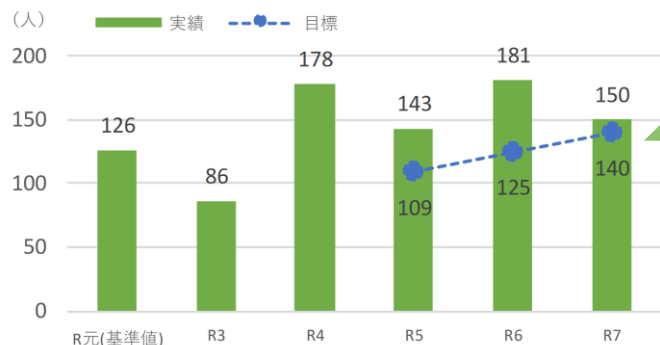
基本目標

2 活動する

それぞれの持ち味やできることを活かす機会をつくり、誰もが活躍できる地域づくりを進めます。

■ 指標① ボランティア新規登録者数

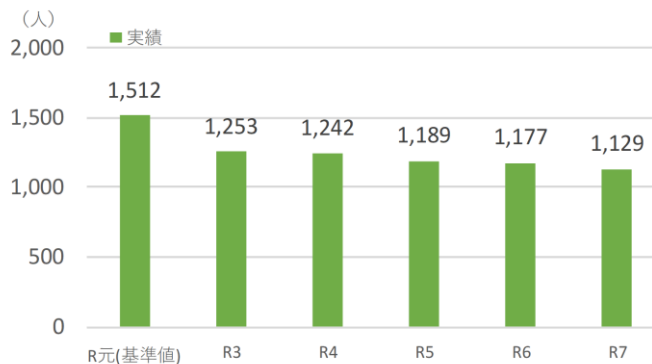
(市社協、茅ヶ崎ボランティア連絡会の加盟団体、地区ボランティアセンター)



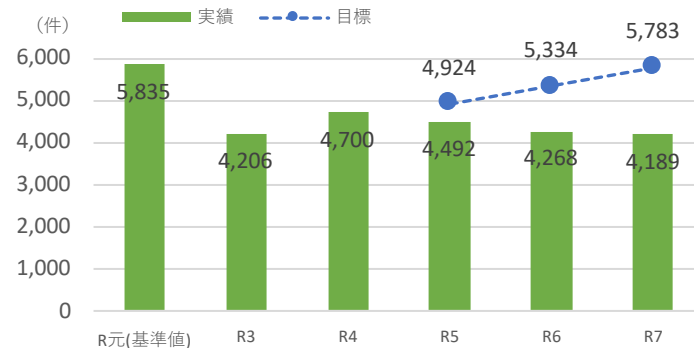
150人
目標達成！

■ (参考) ボランティア登録者数 (全体)

(市社協、茅ヶ崎ボランティア連絡会の加盟団体、地区ボランティアセンター)



■ 指標② ボランティア活動件数 (市社協、地区ボランティアセンター)



指標の
状況

ボランティア新規登録者数は目標値を上回っていますが、活動者の高齢化による登録者数の減少は不可避であり、新たな担い手の確保が課題となっています。

ボランティア活動件数は減少傾向にあるものの、一部の地区では増加していることから、地域ごとの状況を把握していく必要があります。

評価

新規登録者数は目標を達成

ボランティア新規登録者数は目標に達しましたが、継続的な担い手の確保に向け、登録者が活動に参加しやすい環境づくりを進める必要があります。

多様な世代が参加

若者から高齢者まで、さまざまな世代が地域福祉活動に参加しており、多様な人が活躍できる地域づくりが進んでいます。世代を超えた参画は、地域福祉活動の継続性を高めることにもつながっています。

基本目標

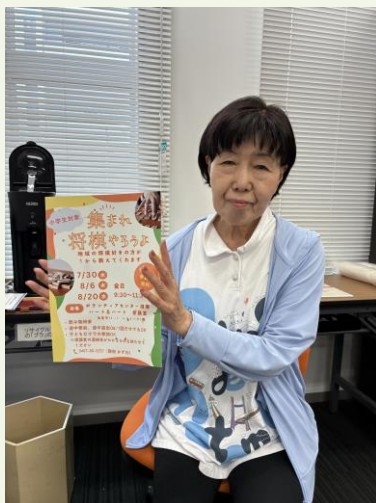
2

活動する

それぞれの持ち味やできることを活かす機会をつくり、誰もが活躍できる地域づくりを進めます。

1 地域の活動に係る情報発信

多様な媒体での情報発信を行うとともに、地域の情報発信力を高めました。



(主な取組み)

- 情報紙「OPEN THE DOOR」、「ボランティア活動のしおり」、「社協ちがさき」の発行（市社協）
- HP、LINE、Instagramなどによる情報発信（市・市社協）
- 市民向けデジタルデザインツールの研修（市）

2 できることを活かせる機会づくり

それぞれの持ち味やできることを活かす機会をつくりました



(主な取組み)

- オフィスちゃぼの開催（市社協）
- 市社協・地区ボランティアセンター等における、ニーズの掘りおこしと地域人材のマッチング（市・市社協・各地区）
- 若い世代によるスマホ教室（海岸）

3 担い手の育成・支援

各種研修講座等を実施するとともに、多様な主体の連携を進め、商店・企業等の参画を推進しました。



(主な取組み)

- ボランティア大学（市社協）
- ボランティア入門講座（市社協）
- ユースボランティア茅ヶ崎（市社協）
- 初心者向け、支援者向け研修（市社協）
- 地区ボランティアセンター連絡会（市社協）
- 地域ボランティア入門（湘北）

基本目標

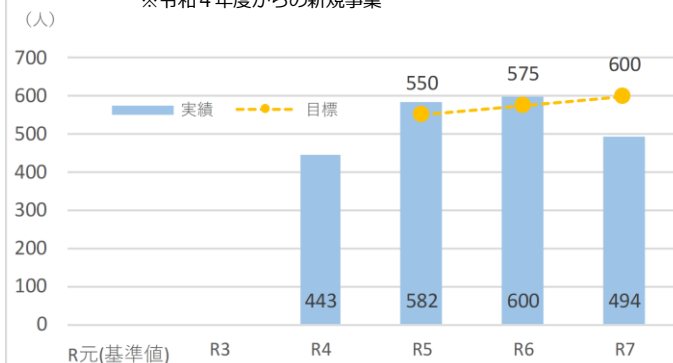
3

支え合う

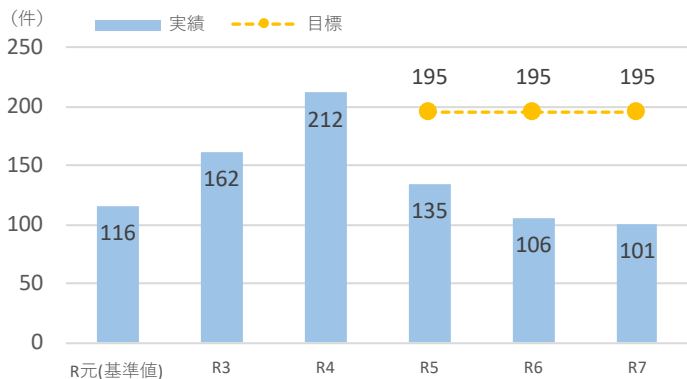
誰もが安心して暮らせる地域になるように、
みんなで課題に取り組み、支え合う仕組みをつくりま

■指標① 福祉総合相談者数（実人数）

※令和4年度からの新規事業



■指標② 地区支援ネットワーク会議での共有事例件数（新規実件数）



指標の状況

福祉総合相談は令和4年度の開始以降、関係機関等からの多くの相談を受け止める体制が定着してきました。複合化・複雑化した課題に対し、包括的な支援を行う体制整備が進んでいます。

地区支援ネットワーク会議では継続的に地域課題の共有を行っており、新規共有事例件数は減少しましたが、既存ケースへの継続支援や地域づくりへの展開等、地域住民を主体とした取組みが進められています。

評価

相談支援体制の充実

福祉総合相談者数は減少していますが、相談支援機関の連携体制が整い、「どこにも当てはまらない」ケースとして、福祉総合相談に持ち込まれる相談が減少したとも考えられます。

地区支援ネットワーク会議での継続的な情報共有

地区支援ネットワーク会議での共有事例件数は減少していますが、引き続き市内全地区において、定例的な会議が開催され、相談事例や地区内情報の共有を通じて、地区課題を捉え、地域づくりにつなげることができました。

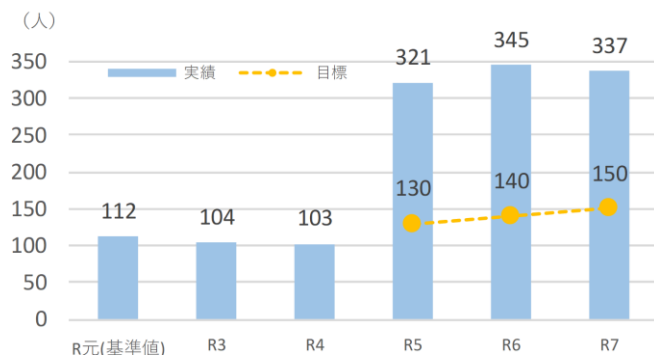
基本目標

3 支え合う

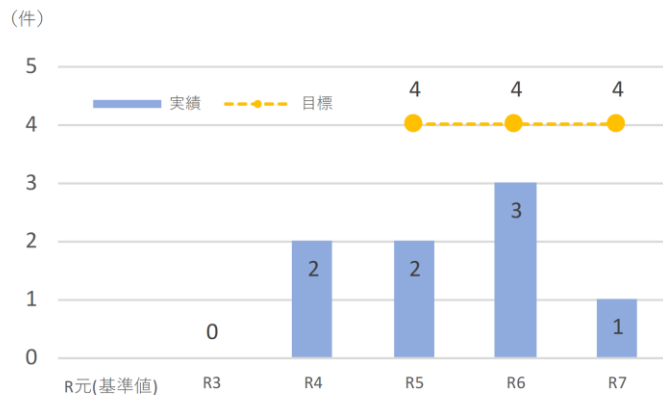
誰もが安心して暮らせる地域になるように、
みんなで課題に取り組み、支え合う仕組みをつくります。

■ 指標③ 成年後見支援センターへの相談者数（実人数）

※令和4年度までは委託事業、5年度からは市直営として市役所内で運営を開始



■ 指標④ 市民後見人の新規受任件数



指標の状況

成年後見支援センターは市直営化以降、相談件数が増加しています。制度の周知が進み、権利擁護に関する相談窓口として定着しています。

市民後見人の受任件数は目標には届かなかったものの、市民後見人養成や受任調整など、今後の受任につながる取組みを継続しています。

評価

権利擁護を支える相談体制が充実

制度の利用支援や関係機関との連携を通じて、判断能力に不安のある人が地域で安心して暮らし続けられるよう、支援体制の充実を図りました。

権利擁護の推進

市民後見人の受任件数は目標には届かなかったものの、市民後見人の養成や受任に向けた関係機関との調整、制度の普及啓発を着実に進めました。今後も関係機関との連携を図りながら、権利擁護を支える人材の育成と制度の利用促進に取り組めます。

基本目標

3

支え合う

誰もが安心して暮らせる地域になるように、みんなで課題に取り組み、支え合う仕組みをつくりま

1 地域の課題に地域で取り組むことができる体制づくり

地区支援ネットワーク会議等において、多様な主体が参画し地域課題の共有と解決に向けた取り組みを進めました。

(主な取り組み)

- 移動販売による買物支援の実現
(茅ヶ崎南地区まちづから協議会福祉部会
海岸地区地区支援ネットワーク会議)
- フードドライブの実施
(茅ヶ崎南地区フードドライブ実行委員会)
- 高齢者向けスマホ教室の開催
(湘南地区支援チーム)
- 地区懇談会の開催
(各地区社会福祉協議会)



2 連携強化

コミュニティソーシャルワーカー (CSW) ・相談支援包括化推進員によるマッチングや、多様な主体の参画による勉強会の実施により、各主体の連携を図りました。

(主な取り組み)

- CSWや相談支援包括化推進員による地域活動と企業等のマッチング
(市・市社協)
- 協力企業等の例：明治安田生命保険相互会社、地域密着型通所介護湘南ロケット、株式会社サン・ライフ、スギ薬局、ネオ・サミット、シーサイドアニマルクリニック、社会福祉法人麗寿会ふれあいの麗寿、ウエイズトヨタ神奈川株式会社茅ヶ崎中央店、株式会社スウェルズワークス〈ロケットチキン〉、社会福祉法人かがやき湘南ベルサイド、株式会社ワークスシー、エスパティオ茅ヶ崎小和田店、株式会社マルエツ など
- 地域共生社会の実現に向けた研修 (市)
 - 重層的支援体制整備事業に係る新人研修 (市)

3 相談支援体制の充実

複合化・複雑化した課題を抱える人や世帯への包括的な支援を行いました。また、地区ボランティアセンターや地区支援ネットワーク会議を中心に、地域で支え合う相談体制の充実に取り組みました。

(主な取り組み)

- CSW、相談支援包括化推進員の配置 (市社協・市)
- 地区ボランティアセンターにおける相談対応 (各地区)
- 地区支援ネットワーク会議等における地域の支え合い・連携 (各地区)



4 権利擁護の促進

判断能力が不十分な人の権利擁護のため、成年後見制度に関する啓発や市民後見人の養成等、制度利用の促進に向けた取り組みを行いました。

(主な取り組み)

- 成年後見制度講演会 (市)
- 公民館等へのミニ出前講座 (市)
- 関係者合同勉強会 (市)
- 市民後見人養成講座 (市社協・市)



令和7年度のまとめ



ミニデイ・サロンの新規設置数が17か所となり、地域の居場所づくりが進みました。



ボランティアの新規登録者数は目標に達しましたが、全体の登録者数は微減であり、継続的な担い手の育成と定着が課題です。



CSWや相談支援包括化推進員のコーディネートにより、多様な主体の連携による地域福祉活動が広がりました。



地区支援ネットワーク会議等の地区の取り組みや、関係機関が連携するための取り組みを進めることで、包括的な相談支援体制の構築が進みました。

今後も引き続き、一人ひとりを尊重し、共に見守り支え合い、心豊かに暮らせるまちを目指し「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン **3**」の取り組みを進めます